

|      |                               |      |           |
|------|-------------------------------|------|-----------|
| 応募者名 | 御殿場市                          | 分野   | グリーン社会の形成 |
| 取組名称 | “デジタル地域通貨”を介した環境と経済の御殿場型循環モデル | 取組地域 | 静岡県御殿場市   |

| 概要               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組内容             | 富士山麓の豊かな森林を守りながら財産価値を有するＪ-クレジットを生み出し、これをカーボンニュートラルに取り組む企業に売却して、その売却益を市民の環境活動や様々な社会課題の解決、まちづくりの各分野の取り組みに対してデジタル地域通貨「富士山Gコイン」によるポイントとして還元し、市内流通させる。これにより、ある意味相反する脱炭素と経済が、デジタル地域通貨を介して両立・好循環するとともに、市民活動を応援するモデル。デジタル地域通貨あってこそ他に例を見ないモデルであるとともに、Ｊ－クレジットの売却益を活用することでデジタル地域通貨が一般財源に依存せず、自立・自走する持続可能な取り組みである。 |
| 実績や効果            | 令和６年６月時点で富士山Gコインの流通量は20億円以上となっている。今後、このシステムが本格的に稼働していくことで、環境活動への市民参加が促進され、森林整備が進み、CO2の吸収量が増加し、創出されるＪ-クレジットが増加し、その売却益も増加してデジタル地域通貨の流通量も増加するという好循環が加速する。                                                                                                                                                 |
| 取組全体を通じて訴えたいポイント | デジタル地域通貨と地域資源（富士山麓の豊かな森林）を有機的につなげ、「環境」と「経済」の好循環を実現する画期的な取り組み。これを社会課題の解決と市民活動の活性化という「社会」にまでつなげ、SDGｓの３要素「環境・経済・社会」を持続可能な形で好循環させるモデルを構築したことは前代未聞。                                                                                                                                                         |

| 詳細                   |                                                                                                                                                          |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域の課題解決・魅力向上         | 富士山麓の環境先進都市というブランド力構築はもとより、市内約400店舗共通で使用できるデジタル地域通貨として、市民の約65％にまで普及し、利便性の向上につながっている。また、地域の担い手不足や子育て支援などにデジタル地域通貨によるポイントを活用することで、社会課題解決と地域活性化等に大きく寄与している。 |
| 独自性・先進性              | 地域の宝（富士山麓の森林）を守り、Ｊ-クレジットの売却益を活用することで一般財源だけに依存することなく、日本の象徴である富士山の麓からカーボンニュートラルの取り組みを世界に発信しながら、人口減少に伴う担い手不足や地域コミュニティの衰退への対策を図れる前例のない画期的なモデルである。            |
| 持続性・発展性              | 市の財政状況に左右されず、持続可能なサービス提供を目指している。また、環境活動へのインセンティブとして活用することで、世界遺産富士山の麓の森林環境の保全・整備が進む。これがＪ-クレジットによる更なる歳入につながり、あらゆる社会課題解決のためのインセンティブとして活用できるという持続性・発展性がある。   |
| 他地域への横展開             | 御殿場型循環モデルが大きな注目を集めていることで、近隣自治体もデジタル地域通貨の導入準備を進めている。自治体の枠を超えたデジタル地域通貨の相互利用等に発展することで、富士山麓に新たな経済圏域が誕生する可能性がある。                                              |
| 取組を進めるうえで苦労した点       | 「デジタル地域通貨」と「Ｊ-クレジット」を活用した新しい取り組みを、まず市民に理解していただくのに力を注いだ。                                                                                                  |
| 取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫 | 地権者に負担をかけず、既存の森林整備からＪ-クレジットを創出する体制を整えたことに加え、数年にわたるプレミアム付きデジタル商品券事業などの経済対策事業の継続実施により、市民の大半が富士山Gコインを認知・利用する基盤が形成されたことで、脱炭素と経済をつなぐ鍵としてデジタル地域通貨を活用することができた。  |
| 今後の展望                | Ｊ-クレジットの取り組みを進め、ポイント付与の規模を拡大することで、市内における循環モデルを加速させていくことに加え、同じ生活圈を持つ近隣自治体や富士山麓地域全体を巻き込んだ広域的な循環モデルの形成・発展を進め、富士山の麓から世界に脱炭素と経済の好循環を浸透させていく。                  |